

第4回牧野植物園磨き上げ整備基本構想検討委員会議事録

日時：平成29年3月29日（金）13:30～17:00

場所：高知県立牧野植物園 本館 映像ホール

出席者：[委員] 邑田委員長、井上委員、海老塚委員、大野委員、川崎委員、北村委員、
杉田委員、竹内委員、テリー委員、中島委員、村上委員、安田委員（12名）
[オブザーバー] 高知県公園下水道課、高知県文化財課（2名）
[指定管理者] 公益財団法人高知県牧野記念財団（10名）
[事務局] 高知県林業振興・環境部長、環境共生課（7名）

次第

<第一部> 13:30～15:30

- 1 開会
- 2 高知県林業振興・環境部長あいさつ
- 3 (仮称)ファミリー園、(仮称)スタディ園の整備予定地、その他の視察

<第二部> 15:30～17:00

- 1 (報告事項) 第3回目検討委員会でのご意見について
- 2 議事
 - (1) 平成29年度の当初予算の概要
 - (2) (仮称)ファミリー園、(仮称)スタディ園の機能
 - (3) 研究・お宝展示のあり方
 - (4) その他(五台山の一体的な振興策等)
- 3 閉会

【第一部】

1 開会

2 高知県林業振興・環境部長あいさつ

(事務局：林業振興・環境部長)

昨年11月の第三回委員会の時は、磨き上げ構想の3つの柱を、市民の誇りシビックプライドの拠点、イノベーションの拠点、宝の人材を育成する拠点とすることについて皆さまからご意見を頂いた。また、B委員から基本コンセプトについて12案をご提案頂き、皆さまのご意見を頂戴したところである。

本日は二部構成とさせていただき、前段に整備を行う場所の(仮称)ファミリー園と(仮称)スタディ園の現地の方を見ていただき、具体的なご意見を頂きたい。

二部では、磨き上げの方策についてのこれまでのご意見を取りまとめたものを、さらにご議論いただきたい。限られた時間であるが、皆様の忌憚のないご意見をいただき、しっかりと磨き上げを行っていききたい。

3 (仮称)ファミリー園、(仮称)スタディ園の整備予定地、その他の視察

(事務局：環境共生課長)

視察に先立ち、資料1をご覧ください。

第3回の検討委員会では3つの柱である「拠点」という視点から、誇りと愛着を持つ「市民の

誇り（シビックプライド）の拠点」、内と外の知の融合による新しい知の創造とした「知（イノベーション）の拠点」、「宝の人材を育成する拠点」とに区分し、第一期構想、第二期構想について方向性を示しご意見いただいた。

市民の誇りの拠点としては、子どもから大人までが植物に親しみながら自由にのびのびと過ごすことができ、混々山から眼下に広がる美しい50周年記念庭園や結網山、竹林寺、太平洋が見渡せ、多彩なフラワーイベントが可能となる「(仮称)ファミリー園」を新しく造成することとし、回廊から南側の1.7haの場所を候補地としてお示しした。今回具体的な広場の機能をゾーニングしたイメージ図をもとに、現地を視察してご意見をいただきたい。

宝の人材を育成する拠点については子どもたちが自然に親しみながら探究心を育む教育の場、第2第3の牧野博士を育む唯一の植物園とし、植物と触れ合いながら学べる体験学習コースとなる「(仮称)スタディ園」を新しく造成することとし、回廊から北側の緩斜面を候補地としている。具体的なゾーニング、機能配置をしたイメージ図をもとに、現地を見てご意見をいただきたい。

シビックプライドの拠点、イノベーションの拠点、宝の人材を育成する拠点、この3つの機能を融合して世界に誇る研究と牧野博士のお宝を一般公開する機能を備えた「(仮称)研究棟・お宝展示館」も新設することとし、展示館東側の敷地を予定していたが、現在の資源植物研究センターの耐震診断の結果を待ち、再度候補地の検討を行うこととして前回は保留とさせていただいた。今回、既存の資源植物研究センターを再度見ていただき、検討を行いたい。シビックプライドの拠点となるお宝展示としてのお宝の見せ方、必要な展示スペースの確保については、本館と展示館の活用につき、現地を確認しながらご意見をいただきたい。

オープンイノベーションによる内と外の知が響き合う研究機能として国内外の研究者が交流でき、子どもたちも職場体験や研究体験ができるオープンラボラトリーの活用についても再度ご指摘いただきたい。

宝の人材を育成する拠点はVRや8Kによる映像システムの導入による植物標本、植物画等の新しい見せ方、魅力と価値の最大化については、新設するファミリー園やスタディ園とつながりを持たせる視点で、既存施設である本館と展示館での活用スペースについて確認したい。

資料2はファミリー園、スタディ園のゾーニング図を記載している。機能配置を含め、確認しながら現地視察を行いたい。

また、磨き上げ整備におけるお宝展示映像システムの候補地についても、既存施設の有効活用も大事であり、活用状況も視察していただく。

・・・現地視察（説明者：事務局環境共生課長）・・・

【第二部】

1（報告事項）第3回目検討委員会でのご意見について

（事務局：環境共生課長）

第3回検討委員会において、B委員から、皆さまからいただいたご意見を取りまとめたコンセプトのたたき台のプロセスが報告された。資料3は、12の案、第2回検討委員会でのご意見、第3回検討委員会でのご意見、牧野植物園のご意見も記載させていただいている。コンセプトの検討と、整備の構想が平行して進んでいるため、ファミリー園やスタディ園の機能や整備の視点からも更にコンセプトの検討をお願いしたいが、現時点では資源センターの耐震診断の正式な結果を踏まえ、お宝展示館、映像展示、オープンラボの整備などまだまだ検討の余地があり、平行した検討を行いたい。

（事務局）

ここからの進行は委員長にお願いする。

(委員長)

全体のコンセプトと個々の具体的なアイデアについて平行して詰めてきているが、今回は第4回ということで、スタディ園等の事業が具体化している。1時間30分と時間が限定されているため、何か取りまとめるというよりも、個々の事案についてご意見、アイデアをたくさんいただき、今進みつつあること、これからのことに結び付けてプラスの方向にお手伝いできたらと考えている。

議事の1番目の平成29年度の当初予算の概要について、第1回目の委員会の時から県はどれくらいの予算を付けてくれるのか、それによってできることは違うという話があり、ローブウエイのようなものは考えないことになった訳だが、園内についてはかなり具体的に進めていくということで、最初に29年度の当初予算の概要についてご説明いただく。

2 (1) 平成29年度の当初予算の概要

(事務局：環境共生課長)

29年度の磨き上げ整備における予算として、当初予算を議会に提出し、先々週議会の承認をいただいた。予算額は56,798千円を計上し、ファミリー園とスタディ園の造成工事に係る測量設計委託費とその他事務費を計上している。この測量設計委託をすることで、皆さまからいただいたご意見を盛り込んで実施設計を組みたいと考えている。実施設計が決まると、造成工事の総額費用が出てくるため、県の補正予算を組み、工事に着手する。

ソフト事業は、一部ハード事業もあるが、まず、夜の植物園の定期開催について、50周年記念庭園と温室で照明設備の設置に必要な測量設計委託料を26,659千円、また、誘客のためのプロモーション戦略の構築への事業戦略策定支援業務委託料に13,000千円、更に園内ガイド育成の費用5,544千円は、新たな園地にも対応できる体制を整えるための予算を計上している。

スケジュールとしては、29年度にファミリー園とスタディ園の測量設計を行い、造成工事を行い、30年度の秋のオープンを目指したい。それと夜の植物園、園内ガイドについては、測量設計、照明工事を行い、30年の春の「桜の宵」のイベントに間に合うように整備してまいりたいと考えている。お宝公開については、幕末維新博関連ということで、現在公開できるものを取捨選択しながら取り組んでいきたい。

(委員長)

確認として、ファミリー園とスタディ園の測定の予算が付き、工事については別途予算で行われるということでしょうか。園内ガイドの養成は、説明資料には園内ガイド2名の賃金と記載されているが、これは人件費として、実施する人をつけるための予算が付けられたと理解している。

最初のファミリー園とスタディ園が先行して進んでおり、ここが造成できないと先へは進まない。模型に、どこが計画地か示してもらっている。それについて説明してもらってから、ご質問、ご意見をいただきたい。

2 (2) (仮称)ファミリー園、(仮称)スタディ園の機能

(委託事業者)

模型の製作には、財団がいろいろご経験されてきて、実施したかったこと、例えば南園でイベントが実施されてきて、植物園本来の植物の展示が重なってしまっていたため分離したいという思いもあって、今回新たに混々山の隣地を敷地として考える機会をいただいた。およそいろんな

施設については、財団の希望をベースにしているが、大きくは混々山の上部と谷の部分、本館と展示館を結ぶ回廊を境に上部、下部と大きく敷地のゾーニングができる。

この模型は 1/1000 の縮尺だが、牧野は高低差が非常に複雑な山地形である。我々は多くの植物園に携わっているが、植物の多様性 *habitat* から考えると、これは決してマイナスではないと思っている。ただ、人が利用するとなると、この勾配のきつい地形をいかに活用するのがポイントになる。現地の踏査を行いながら、きちんとしないと牧野の地形は侮れない。

現地を歩くと、部分部分の地形の詳細は分かるが、トータルにそれぞれのゾーンがどのように関連しているのか、隣の地形との関連はどうなっているのかを理解するためにこの模型が非常に重要になる。大きくは、回廊から上の部分にファミリー園を計画し、南園を計画させていただいた経緯もあって、多くの県民の方が昔芝生で遊びまわった記憶があるが、現在は花の園がありその場所が無くなったというお話もあり、大きな草地の原っぱが欲しいとの希望であった。

今回はファミリー園の計画の中に、集いの広場と、イベントを行う多目的広場、遠足の方々が弁当を広げられるような憩いの広場、基本的に今の緩やかな地形を生かした緑の草地の 8500 m²になっており、個々が 3000 m²前後でゾーン分けをしている。柵を設けてゾーンを分けてしまうのではなく、全体の 3 つのゾーンは繋がっている場としている。我々としては、高知の夏の日差しは非常にきついこと、台風が通過することが常にリスクとしてあるため、大きな木はできるだけ残したいと思っている。

回廊から下の部分はスタディ園として、ほぼ 10000 m²の敷地がある。これまで財団の方が非常に狭い敷地の中でやってこられた思いをできるだけとげさせていただこうと、検討している。歩いていただいたアクセスの中央部分に、牧野博士が子どもたちにここに来て学んでほしい、牧野博士がおられたら子どもたちを迎え入れる学舎ということで、富太郎の学び舎を設置する。これだけの大きな設備であり、雨宿りの場、シェルター、さまざまな建物的施設を集約したほうがよいと考え、中央部に配置している。上部には有用植物樹林園を設置する。この場所がスモモにとって一番生産が良いとのことで、当初、有用植物樹林園は別の場に考えていたが、一番成績の良い果樹を使ってほしいとの要望があり、中央部分に果樹を利用した有用植物樹林園を配置した。地形の緩い部分に広場を作り学び舎へ向かう人々の近くに少しまとまった広場を設置する。ただし、検討の中で学ぶというキーワードがあり、学童、児童をテーマにされていることが多いが、小さな子どもさんたちが、比較的緩やかな広場の一部にでもチルドレンズガーデンのような場所を作ると、お母さま方にも、より楽しんでいただけるのではないかと考えている。畑の計画部分には段差があり、ここでキッチンガーデンのような、牧野の野菜を楽しめる場を設けている。大人数で来られた場合の体験プログラム、学習プログラムを実施できる場を学び舎の下部分に設けている。そして、どんぐり園については前から牧野が実施しておられるが、継続して行っていただく。現在、茶の葉がある部分は、和洋のハーブを主体にしたゾーンにする。比較的緩いとはいえ、急な地形であり、今後実施設計の段階では、地形をきちんと把握してやっていく必要がある。

我々が携わらせていただいた中で、牧野の我々なりの原則がある。地形がきついとはいえ、できるだけコンクリートの構造物、擁壁は作らない。高知は日本一雨の降る県でシンガポールと一緒に 2,400 mm の雨が降る。この雨は利水をすれば農業にとってはプラスだが、排水といういかに早く水を流すかになると、利水が成り立たないため、我々がやってきたのは基本的に透水性を持たせた排水設備を作っただけで水が染み込むように、周辺の住民の方々の水に対することへも配慮することで、今歩いて見ていただいたとおり、ほとんど U 型の側溝はない。道の側溝の横に大きな栗層があり、その中に大きなパイプが入っており、水がろ過されて排水される仕組みで、なおかつ透水性で水はできるだけ中に入る。大きなゾーニングの話と同時にディティールも、牧野では重要とされる。

(委員長)

それでは、すでに予算がついていることを前提として、今説明していただいた（仮称）ファミリー園と（仮称）スタディ園について何かご意見、ご質問がございましたらどうぞ。

（A 委員）

視察をさせていただき、本当に牧野はこの地形を活かしてこれだけ拡充ができれば素晴らしいものになるだろうと思った。ポテンシャルを持った地形と広さである。一方で上がっているプランが全て悪くなくていいが、我々がこれまで議論してきた内容が反映されているようで、反映されていない。隔靴搔痒のような気持ちがある。そんな気持ちがあつて、委員の皆様は今日見てどんな風に思っているのか、感想を聞きたい。

（B 委員）

A 委員と同じようなことを思った。我々がこれまで議論してきた内容が反映されているようで、反映されていないようにも、感じた。

振り返れば、私たち 14 人の委員は、知事より招集され、1 回目、2 回目、3 回目の検討会議を過ごしてきた。

そして、課題を述べ合い、3つのベクトルに沿って理想や実行プランを、それぞれ立場を代表して述べ合い、この検討会議自体をもどう進んでいこうかと話し合い、本日の第4回検討会議に至っている。

今日、その第1回～第3回までの委員の意見交換がどのように、（仮称）ファミリー園と（仮称）スタディ園に形になるかの設計案を見せていただいたが、思うに、この設計案に我々がこれまで議論してきた内容が果たして正しく反映されているのだろうかと思った。

さらに、思ったことは、この設計案のような施設投資をしたとしたら、いったいどのようなリターンが来るのだろう。とも考えさせられた。

また、リターンそのものには有形なものと無形なものがあつて、無形のリターンの一例には子どもたちの心に素敵な気持ちが芽生えるというリターンもあるだろうし、有形の代表的リターンには、この施設を作ったら入場者数がどうなるのかというのものもある。と思う。

有形無形のリターンについて、我々はどう考えればいいのか。

以上のようなことをあらためて考えさせられた。

（C 委員）

今まで出て来たものすべて、総花的に扱ってくれていると感じた。これから、設計されていく段階でこれだけはやりたいってものを残すというか、第一番に持ってくる必要があるのではないか、いろんなものを含んでいるのは良く分かるが、もう少し主となるものでいいのではないかという気はする。

それともう一つ、排水の問題であるが、U字側溝なんかはまず使わないでほしい。というのは、木を切って芝生ばかりになるとそれだけ雨が流れやすくなり、雨水は斜面が綺麗なほど早く集まる。下流へ行くほど水量が多くなるという問題があるため、どこかで調整池を作り、処理することも考えていただきたい。

（D 委員）

実際に、歩いた率直な感想は、ずいぶん斜面が多いなということである。どういう風に整地していくのかもがあるが、できるだけ平らな所が欲しい。斜面を駆けずり回るのも面白いとは思いますが、転ぶこともあり、平らな場所があると嬉しい。子どもだと疲れてしまう。それと、スタディ園に関して、学び舎があつてそこでいろんな学習の体験ができることを期待している。実際に体験的

に千切って、取って、体験ガーデンでハーブティーを作るとのことだが、他にも何かこれができるといった目玉があると、ここに来てみようと思う学校は増える。ここならでの、作ったり食べたりプログラムや、勉強に活かされるプログラムを出していただければと思う。とにかく一番は、斜面はもうちょっとどうにかならないのかと思う。

(E 委員)

五台山の住人、北裏の地区の土地管理者であるが排水対策に非常に敏感である。その意味で先ほどの利水と排水の話聞かせていただき、非常に気を使っていると感じた。これであれば住民に対して説明がしやすい。先ほど意見があったとおり、ある部分、北側南側にも調整池が必要なのではないかと。陰所を無くすということはこのようなことも考えていただきたい。今日の説明の中で、東側に園地を拡張していくという話の中で、工事車両の通行が困難なこともあるが、長江圃場から上がってくる道もあり、そこに待避所を設けることによって住民の理解も得られやすく、何とかなるのではないかと。と思う。

(F 委員)

C 委員さんからもお話があったように、盛りだくさんの整備だと感じた。果たしてこんなに整備して今後園で維持していけるのか危惧をした。整備して園地を拡張したが、それに伴い入園料もアップするのか、高知県の場合、高校生以下は入園無料であるためスタディ園、ファミリー園は子どもたちがたくさん来られて良いが、整備に見合うような収入は得られるのか、園で収益も確保することも必要なのではないかと。思う。県はこの際にたくさん整備をしようと案が出ているが、牧野植物園の方は県と足並みをそろえて同じ思いでおられるのか。そんなに整備されて、これでやっていけるかとそんな戸惑いもあるのではないかと。

ファミリー園、スタディ園は確かに五台山の中にあり、平地の植物園ではない。五台山は 1,300 年の長い歴史の山であり、地形を極力尊重していただきたい。山なので当然斜面はある。かつて高知城に滑り山があり、斜面を嬉々として子どもたちが滑り降りていた。安全を確保しつつ、斜面ならではの楽しみが工夫としてあるのではと感じた。

大きな樹木を極力残していただくことは、防風、台風の関係は当然あって、大変いいことだと思う。混々山は非常に眺望が良く、あそこまで行ってみたいと思わせる眺望だと思う。園地が見えて寺が見える。牧野植物園の磨き上げも大変大事だが、同時に五台山全体を磨き上げることも工夫の中に入れていただきたい。山頂、牧野植物園、竹林寺が一体となって廻れる周遊路のようなルートがあればいい。

照明設備を設置し、夜の植物園を行うことは、とてもいいことである。かつて展望台では、高知で宿泊の方はバスでやって来て、あの展望台からの夕暮れを楽しむということが、しばらくあった。寺も協力はできるため、山頂から高知を眺め、寺の一風変わった雰囲気を楽しむ、そして牧野さんで夜の植物園を楽しむ、そんな連携もある。

今までの南園がちょっと薄らいできたのかなと思う。ファミリー園、スタディ園の整備が進むと、南園の 50 周年記念庭園であるとか、昔私たちが飛び回り、走り回っていたあの場所の性格が少し薄らいできている。スタディ園の建築はぜひいい建築を作っていただきたい。そんなにお金のかかる建築ではないかもしれないが、牧野さんには内藤建築があり、広場や学び舎もあるため建築で人を呼べる。是非、内藤建築と同時に新しい名物になるような建築になってもらえばいい。

(G 委員)

先ほど住職が言われたように、建築と仰っていたが、傾斜もだが、ここを見たら牧野植物園だと思えるメインのような、ディズニーランドの場合はお城のような、USJ なら外の地球儀のよう

な、ここを見たら牧野植物園だと思えるものが一つあればいい。それが建築、植物かもしれないし、桜の木かもしれないが、何かこれを見たら絶対に牧野植物園を思い出すものがメインであればいいと思う。

傾斜が非常に急で、子どもたちが遊ぶのはいいことだが、それに付き添うおじいちゃんおばあちゃんやベビーカーを押して登っていくお母さんお父さん、障害者のことを考えるとやはり傾斜は急なのは大変である。どこか平地になっている場所があり、視察中も3人組のお母さんがおられたが、ベビーカーに子どもが乗ってなくて荷物置になっていることが多い。どこか平地があれば、ベビーカーを置いて子供と一緒に遊びに行くこともできるので、平地を是非作ってほしい。

ファミリー園の広場エリアとチルドレンズガーデンの距離があるため、小さいお子さんがいて大きいお兄ちゃん達は広場エリアで遊びたいとなると目が離れてしまう。平日お母さんが一人で牧野植物園に子どもを連れて遊びに来ることを考えた時に、距離があるのが不安に感じるのではと思った。

あれだけの広さがあると、トイレ、授乳室をいくつか作らないといけないし、お茶を持参する方もいるが忘れた方のための売店も欲しい。絆創膏やおむつの一枚売りをしている売店とトイレがセットであるとお母さん方は便利に感じる。

地元の幼稚園や小学校の子どもたちが書いた絵を展示できる場があると子どもたち、家族いろんな人達が繋がることができ、活用できるので素敵である。

また、麓から山を上がる一本道のルートで、牧野に来たことがない人、久しぶりに来た人にはこの道で正解なのか不安になる。上に行くにつれて看板の花が色づき、植物園に着いたら七色に色づいているような遊び心があると、遊びながら親子の会話も増える。上がって行く道の過程からワクワクできるようなものがあればいいなと思う。

(B 委員)

14人の委員が集められただけあって、皆さんの意見は素晴らしく私の気づかないことがたくさんあった。

さて、この間、私が制作した資料をお見せした時に M 委員からメールをいただいていたので、皆さんにご披露させていただく。

「県が知事の命を受けて絶対に達成しなければならない、短期、中期、長期の目標数字をどう反映するか、そもそもそれは何か。投資対効果を意識する、これはもっと上にあるべきではないのか、県の皆さまが判断される部分だと思う。リターン（意識する目標）は来場者目標数なのか、単価なのか、滞在時間なのか、満足感なのか、総売上なのか、地域全体の消費効果などか。」

皆様、どうでしょうか。

さて、個人的な話になるが、第一回の時に書庫や標本室の現場でいろんな物を見せていただき、滅茶苦茶感動した。

俯瞰的に考えると、牧野植物園の魅力には、この書庫や標本室をも含む、様々な現在ある魅力と、今日見せていただいた未来に計画されている魅力がある。

その未来への魅力に対して、本日は3方向に渡って計画を見せてもらい、それを現地で説明していただき、頭の中で完成図を想像もしてみた。

現在ある魅力の代表格である書庫や標本室は物凄くわかりやすい魅力があって、M 委員もおっしゃっている、税金を投入して、リターンは何であったら県のためになるのか、この植物園のためになるのかというのがいっぱい想像できた。

ただ、その書庫や標本室の魅力への投入に関しても、無形のリターンの場合と有形のリターンの場合があり、有形のリターンの場合も、その中身は何個も考えられ、その中の一つに、先ほどの来場者数の問題があるような気がする。

3つのそれぞれの分野の磨き上げの課題は何であるか、その理想的な未来は何であるのか。その時に特に未来に向けて広報、プロモーションしていく時に、何を有形リターン、無形リターンの目標にしていくのか、それを皆さんと考えたい。

入場者数に関しては、特に調査が必要ではないかと考える。

来場していただくターゲットは、たとえば、東京の方なのか、関西の方なのか、中国地方の方なのか、四国内の方なのか、高知県の中でも県内のどこの地域の人なのか、外国の方なのか、さらにそれらの方々はどんな目的で来ていただいたらいいのか。何万人増加させるべきものなのかという課題をもって調査をしなければならないと思う。

調査の具体的なイメージ例を言えば、調査の比重を仮想ターゲットにそれぞれ分配し、たとえば調査対象の方々を50%、10%、10%、10%、10%、10%にして1000人にアンケートしてみるとすると、500人、100人、100人、100人、100人、100人に調査することになる。例えばその比重で東京の方、関西の方、中国地方の方、四国の方、高知県内の様々な地域の方々に比重分配して調査してみる。

その結果、こんな施設内容であれば牧野植物園に行く。こんな施設内容なら牧野植物園に行かない。と調査結果が出たとして、調査結果から牧野植物園のそれぞれの戦略ターゲットに対する施設内容の魅力度ランキングが整理できる。

例えば、スタディ園の中のこの施設なら牧野植物園に行く、ファミリー園のこういうコンテンツなら牧野植物園に行くというものが分かれば、それにもっとお金をかければいいと思う。

このような調査結果がわかれば、予算比重をつけて、淘汰して特化した方がいい施策がわかりやすくなるのではないかと。

牧野植物園に来たことがない人、もしくは今後来そうな人に、何らかのアンケート調査をして、来てくれるためには、どこにお金を投資したらいいのかを、何かの形で調べ上げてはどうだろうか。

(H 委員)

牧野植物園は県立の植物園なので県民にとっては良い、最も大切なことだとは思いますが、ファミリー園は家族連れのイベントを行えば間違いなく貢献すると思うし、スタディ園は学童のためのイベントに使ってもらえていいと思う。

一方で、牧野植物園を世界的な植物園にするとか、外国人を呼ぶとかの部分にはファミリー園もスタディ園もほとんど寄与しない。経済普及にはすごくいいと思うが、世界的な植物園にするには別のものを考えないとだめなのかなと思う。

どんぐり園の近くに竹林があった。私の大学では檜の森に竹が進入してきたが、どんぐり園は竹林になるのではないかと。少なくとも檜園には進入してくるので注意された方がよい。

夜のイベントは面白い。写真で一番印象的だったのは光るキノコの写真で、シイノトモシビタケといって高知で高橋さんによって撮影された写真ですごく印象的だった。生きている木と共生できる菌かと思うが、小笠原にも同じようにヤコウタケというキノコがいる。夜のイベントの一つに使ったら面白いのではないかと考えた。

外から人を呼ぶ場合、東京の新しい美術館などの施設ではおしゃれなカフェを併設していて、メニューも美味しい。このカフェを見たら、あまり流行ってなさそうでしたが、おしゃれで美味しいカフェは東京などでは客を呼ぶのに絶対必要と位置付けられている。周りを潰して何か作るだけでない方向でも何かできればいいと思う。

(I 委員)

どうしても高齢者や障害者の方がどうしたらここに来てくれるかなと感じるため、もう少し移

動の手段がしっかりしてほしいと思う。前回、ロープウェイやエレベーターの案が出たが、無くなったことは聞いている。沖縄の古宇利島の新しくできた施設で、建物に行くために電気カートのようなもので移動する体験をしてきた。カートなので子どもでも運転でき、実際に運転しなくても電気が通っているため勝手に進む。そこに高齢者や子どもたちが乗った時に周りの景色を見ながらぐるぐると上がっていくことを体験した時に、牧野の方にあれば景色も見られるし、移動にも便利で、一定の所まで上がってから車いすを押すのにもいいと思った。

ファミリー園、スタディ園などいろんな案が出ており、素晴らしいと思う。牧野植物園は県民の憩いの場になるべきだと思っている。

海外からの誘致について分からないが、ここに来てもらうための手段が一番大きいのではないかと考えていた。

この構想を全部止めてロープウェイとか電気カートの導入、そんなことも考えてみてもいいと思う。後ろ向きの提案になってしまうが、このように思った。

(J 委員)

外国人の観光客が来園するにあたって一番少ないのは看板で、場所が広いのに英語中国語の看板はなかった。植物を見ている、どんな植物か分からないから、珍しいものでも面白くない。

大きい投資をしたいのは分かるが、その前にブラッシュアップすればお客さんは来る。レストランの今日のメニューはいくつかあったが、すべてに肉が入っていたため、肉が食べられない人は食べられない。外国人の観光客が来た場合、友人に悪評を話す場合がある。

それ以外は皆さんと同じことを考えている。インフラは大切だが、コンテンツはもっと大切。ディズニーランドはそのポイントをよく分かっているの、中途半端なアトラクションより、魅力創造を入れている。

牧野植物園の一番のコンテンツ、全国で一番珍しい植物を使ったビジネス、例えば光るキノコなど。もし購入できるなら、みんな自分で買う、可能性があるかは分からないが、今植物のノウハウは進歩しており、同じようなものや普通の人が買えるものは作れると思うし、その栽培は結構面白いと思う。

光るキノコの工場に入れるような、例えば外国人はわさびの工場見学が好きなので、そのようなものもあるのはどうか。世界で珍しいハーブを育て、牧野がエキスパートになれば全国、外国へも販売できる。その珍しいハーブを見たければここに来るようになる。

コンテンツが一番大事であり、牧野なら植物のノウハウである。私なら、植物のコンテンツを育てるために投資する。

(K 委員)

これだけの資金を投入して磨き上げ整備を行うということで、当然入園者数の拡大は命題になってくる。県内の家族連れを呼び込むのを核にしなければならぬし、そうなるだろうという目で見ていた。例えば、スタディ園のどんぐり園は今まで牧野植物園さんが取り組まれていたことの継続で、子ども向けに非常にいい取り組みをされている。子どもを連れて改めて来園しようかと思ったし、広場エリアのチルドレンズガーデンはゾーニングの指摘はあったが、非常に良く、是非実現してもらいたい。

観光型ではないとは言いながら、あまり知識がないような人でも急に来て楽しめる遊びの要素が絶対に必要である。それを取っ掛かりとして来てもらい、奥深くに入ってきてもらえればいい。

ファミリー園の憩いの広場も現段階では芝生広場で走り回れる空間となっているが、もう少し遊びの要素を広げてもらって、例えば木製のアスレチックや、斜面を逆手にとって芝生滑りのような、チルドレンズガーデンの対象者よりも少し年上の子どもがお父さんお母さんと一緒に楽し

めるスライダー系の乗り物なども充実させてもらえればよい。

旅行会社の目から見れば、インバウンドや国内の旅行ツアー（メディア系）のコースに牧野植物園を取り入れてもらおうと思えば、高知だけに来るコースはほとんどなく、四国周遊コースになるため、非常に時間がタイトで一か所あたりの時間は少ないのが現実である。五台山に来る場合は竹林寺さんとセットで、取れても1時間30分。短縮コースでハイライトのここを見て竹林寺も見て1時間30分で収まるような、折角の施設でもったいないが、現実として2時間、3時間を一か所で取れるようなコースはないため、ハイライトをはっきりさせ、1時間や1時間30分で竹林寺とセットで周れるようなコースの提案ができるプランを考えればコースに組み込んでもらえると思う。

（A 委員）

上がってきた具体案にケチをつけるばかりでなく、委員の方から何か提案はあるのかと思われると思うが、提案として、老舗のアウトドア雑誌「ビーパル」の紙面上で子どもたちが遊べる理想の公園プロジェクトという企画があり、ほぼ内容が固まり、イラストになっている。Kさんのお話にもあったが、アスレチックよりももう少し原始的というか、どろんこ遊びなどもっと自然を活かした公園である。このイラストに記事が添えられていて、「中央には小山がある。」この牧野植物園には山はいっぱいある。「そこに放射状に谷が刻まれ、それぞれの谷で異なる遊びが楽しめる。公園のシンボルとなる巨大な根っこでスリルを体験できる谷、水遊びができる谷、工作ができる谷、泥んこ遊びができる谷、小山の頂上には見守り台を作ってその下には防災用品を備蓄できる地下倉庫を設けた。」高知県としては防災用品を備蓄する地下倉庫は大事なところだと思う。「小山から離れた所にはツリーハウスを設置し、公園全体に食べられる実のなる植物を植栽、ここはもちろん木登りもできる。」

ここからは、ビーパルの編集長のコメントだが、「子どもたちにこんな公園でたくましく遊ばせたいというものができました。このパルパークを全国に広めたい、自治体やデベロッパーの皆さんパル（共犯者）になりませんか？」という呼びかけをして、このアイデアを実現してくれる自治体やパートナーを求めている。ビーパルの編集長も牧野植物園のことと価値についてご存じで、是非いいねと、編集長の方からもOKをもらっていて、例えばこのようなものをスタディ園やファミリー園の一部に作ることができないか、結構目玉にもなるし、ビーパルのブランドも活用すると全国的にいいものになるのではないかと、ビーパル誌と組んでみてはどうかという提案である。

（委員長）

非常に子どもは楽しむと思うが、どれくらいの施設があれば何人同時に楽しめるかと、安全上の問題があり、これを作った場合管理できるのかということがある。もしこのような施設をどこかに作るのであれば、自立運営で専門の組織、例えば業務委託するなど今の植物園の人手と職責の中でこれを実現するのは少し難しいと思う。地理的には植物園の中にあるが独立した運営とコンセプトで行わないと外との繋がりが現実では難しいと思う。

（A 委員）

牧野の地形の中でこれを全部行うのは難しいだろうし、少しオーダーメイドで斜面を活かしたようなものにしなくてはならないのかなとは思う。

（委員長）

先ほど、アンケートを行って皆さんが要求しているものについて応えたとのストーリーがあっ

た。意見聴取としてはやったほうがいい。例えば、牧野の HP に今リニューアルを考えているので意見をいただけたらありがたいとの、フリーの受け皿を作れば、見た人は書いてくれるかもしれない。目ぼしいところに投げてみてもいいかもしれない。ただ先週、他県のある街に行って非常にながかりしたが、土産物屋がなくなり東京にあるようなブランド店に置き換わっていて、ある特産品を売っているお店が 1 件しかなかった。この街は一体どんな街になっていくのかと思った。その街はその県で一番人が集まってくる所で、ものを見たり買って帰る所、もう一つは非常にローカルな特色があったので全国の人がここに集まって来るところがあったと思うが、今は小さな東京のようになって田舎の人は直接東京へ行き、外からは観光地には来るかもしれないがその街の魅力をどのように感じているのだろうかと思う。アンケートでどんなものが欲しいかと聞くとそんなふうになっていく危険性があると思う。ここは県の施設であり、来る人の要求に応えるのはもちろんだが、県の施設としてどんなふうに応えたいのかを頭においてもらいたい。

具体的な計画については、いろんな方のご意見にあったように、パーツパーツに分かれすぎていて統一感がない。芝生の境目や隣との繋がりはどうなるのかが少し曖昧な感じがする。真ん中に回廊を挟んで上下に分かれていることもあって、上下を対比したようなものとし、上は傾斜が緩やかで凸なので走り回るのであればこちらで、下は凹型なので走り回るのは危ないためそれなりの使い方をした方がいいという気がした。

牧野の学び舎のイメージが高知県的なものと思うが、高知の民家をここに持って来てはどうか。高知県としてアピールしたい点、外の人が高知に来たいと思う中にもここが高知県らしさを見せられるポイントがあれば、スケッチは近代的なイメージだがローカルな特色を打ち出している所がないため、高知県らしい建物と高知県らしい生活が見られる植物で出来た産物を見てもらい、体験してもらうことに取り組めば牧野らしさとか誇らしさを出せるのではないと思う。

上の広場は、何人くらいの人を入れるかを想定しておいた方がいい。先ほどの視察で 40 名程登ったが、この規模が 10 倍で 400 人、400 人なら整備しなくてもあの間に入った時ちょうどいいくらいで、4000 人ならもっと広場を広げなければならぬなど、1 日に 4000 人 5000 人入った時にあそこに滞在する人は何人いるのかを考えて構想を詰めていただけたらどうか。施設の具体案をもう少し詰めていただき、あるいは、メールでお知らせいただければと思う。

2 (3) 研究・お宝展示のあり方

(事務局：環境共生課長)

事務局から一点、既存の展示館と本館を見ていただいた。最後に資源センターを見ていただいたが、資源センターについてももう少し詳しくご説明したい。資料に資源センターの間取り図をつけているが、研究棟とお宝展示を省いて資源センターで再度検討してみることとなったが、あくまでも知の拠点のテーマについては研究棟の関連であり、2月16日に委員長、L委員、水上園長に集まっていただいて研究分野の今後の在り方についてご協議を頂いた。

L委員からは特に、研究のメッカ、シリコンバレーのような知の拠点を整備してもらいたいし、時間がかかるとの点を指摘されている。水上園長からは分類学と薬学の融合した牧野植物園の強みを活かす所で新しい研究棟にしていきたいとの提案をいただいている。

コンテンツについては、水上園長を中心に専門分野の方々に一度検討いただきながらどういった形に仕上げていくかご意見もいただきたいと思っている。

(委員長)

付け加えると、予算のこともあり現在の建物を再活用することを第一に考えなければいけないようだが、古く手狭く、なお且つ耐震診断が NG となれば色々工事をして狭くなる可能性もあるため、要求としては新しい建物を立て直す方向で考えさせていただく。建物を立て直すことにな

ると、今もし道を広げたら取り壊さないといけない売店やトイレを取り込んで展望レストランも作り、エレベーターで屋上に上がれ、屋上から混々山に車いすで通れるアクセスも付けられるとの利点があるため、お金さえつけてもらえれば総合的な場所の開発ができるということでもよろしいか。お金の問題が大きいですが、できればこのように要求していただき、それに対してどんな反応があるかを見て細かい所を決めさせていただければと思う。

資源センターはそうだとすると、もう一つのお宝展示を視察した展示施設を使ってどのような展示をしていくか。第一印象は展示自体は決して悪くないが、全然更新されていないためパネルが色褪せていたり、時代遅れのテレビ画面を見るようになっていたり、古くなった印象を受ける。これらはこの際リニューアルしていただくことはお願いしたい。それ以外にこんな展示をお願いしたい、このスペースはこんなことに活用できるなど、ご意見のある方はどうぞ。

(F 委員)

展示についてはもう少し広い場所があればいい。牧野植物園は素晴らしい企画展をやっておられて2部屋に分かれているので少し狭隘である。いつも入った時にそう感じる。内容は素晴らしいので、建物も構造上仕方がないのかもしれないが、何か工夫して、折角の14万人中10万人が入っている企画展を広い所でやっていただけたらと感じる。

(B 委員)

10万人入っているのは素晴らしい。10万人の方に来ていただけているなら、知られざる牧野植物園さんの魅力もついでに見ていただける。10万人を12万人へと2万人増やす工夫がさらにあれば、牧野植物園さんの潜在能力を伝えられる機会がもっと増えるかもしれない。例えば、来た人は標本室に入れる、だとか、書庫に入れるとか、何かインセンティブがあれば人は来るように思う。このように10万人のメインエンジンを使って2万3万の上積みをする工夫は何かできそうな気がして、もし、それが実現できたら牧野先生も本望かと思われる。

(F 委員)

植物園というにはここへ訪れた人が植物と触れ合う時間を提供することもそうだが、もっとその向こう側にあるものがある。言葉では難しいが、牧野植物園の文化のような、あるいは牧野富太郎博士の人間、それを見た人が持っている文化、景観も含めたそういったものに触れていく、スタディ園もファミリー園も素晴らしいが、それで終わるのではなくその向こう側に繋げていくような工夫があればいい。

(B 委員)

仁淀ブルーの高橋さんの写真はすごく興奮した。

個人の感想ではあるが、この前竹林寺さんに入らせていただいた時も、先ほどの仁淀ブルーの高橋さんの写真を見せていただいた時も、等しく、命の尊さを感じた。

牧野植物園さんの標本室や書庫が、竹林寺さんと、何か繋がっているなど思った。

そして企画展示の動員数が10万人と聞いたので、例えばこの、牧野植物園さんと竹林寺さんに共通している、命の尊さ、というものを牧野植物園と五台山全体のテーマとすると、いろんなプラスアルファの来場施策が実現できそうに感じた。

(D 委員)

展示館の牧野富太郎の生涯や植物の世界のリニューアルを考えていらっしゃることで、牧野富太郎先生の生涯を展示することも大事で使命だとは思いますが、小学校の場合文字が多すぎてま

ず読まない。絵で表してもらえるといいと思うし、難しい言葉が並んでいるので、もう少し分かりやすい言葉も横に書いて下さると意味が分かる。

植物の世界のコーナーは私達も何度も子どもたちを連れていっているが、一回みたら大体いなくなるパターンが多く、誰かが付いていると一緒に見ているが、今回リニューアルということであれば、もっと体験的にできるだとか、研究者の方がいたり、ロボットでも構わないが、その人たちと一緒に何か実験的なことや植物の不思議を体験できることが、室内や外で体験できたらいいと思う。ふらっと行ってすつといなくなるような部屋ではもったいない。

また、建物の構造の問題かと思うが、牧野富太郎博士の生涯から、植物の部屋に行くまでのスロープが大変面倒で、すぐに行けないのが不便。子どもたちは途中で引き返してきてしまうため、すぐに行ける通路も作っていただければよい。

(H 委員)

お宝を8K映像で見せるとしたら、世界の植物の所か。

(委員長)

今はここ、映像ホールで考えられている。

(H 委員)

映像は放映するのか？それともディスプレイで見せるのか？お宝を常時見せようと思ったらディスプレイのようなものがよい。

(事務局：環境共生課長)

博士の繊細で芸術的な植物画、それと標本、園内に咲いています本物をより詳しく見せるために映像化してそれを映して紹介してはどうかと。ここは現在映像システムがあるが、故障しており使えない状態であり、ここで映像システムのリニューアルを検討している。難点は、学会や大会を行っており専用ホールにはできないこととの兼ね合いである。

2 (4) その他 (五台山の一体的な振興策等)

(事務局：環境共生課長)

五台山地域の連携ということで狭隘道路の解消と周遊コースの図面を付けている。

狭隘道路については、竹林寺さんの位牌堂の改修もあり、ファミリー園、スタディ園の工事もあるため時間的には第2期構想の最後になるかと思うが、是非、今後解消に向けて取り組んでまいりたい。

周遊コースというのがあり、これは第1駐車場のロータリーから西側に五台山の展望台がある。ここに、全長 150mの遊歩道があり、竹林寺さんの敷地内にあるが、是非、活用させていただいて周遊コースができれば非常に利便性がアップするということで、今現在個別にお願いしているところである。これらの連携に向けて改善していきたいと思っており、進捗状況等を皆さまにお知らせしていきたい。

3 閉会

(委員長)

次の第五回目の回は必ず開くということで、6月に開催する話なので、また日程をお伺いしての話になる。この回が最終回になれば取りまとめとなる予定であり、現在進行中のいろんなことをできるだけ具体的にさせていただき、それを見ていただくことになる。

それでは、皆さまありがとうございました。これで第4回の委員会を閉じさせていただきます。

(牧野記念財団)

本日はご議論頂き誠にありがとうございました。先ほど、F委員から、牧野植物園の職員と県が違う方向を向いているのではないかとのお話があったので、それについて補足する。

これは本来、南園は芝生広場であって子ども達が飛び回っていた。その場が無くなったとの意見もあり、子ども達がいきいきと植物と触れ合える場が欲しいと、子ども達を連れてくると植物を抜いてはダメと叱っているのはストレスだから植物と触れ合える場が欲しいとの問題意識を持っており、園の方でも必要だと考えて県にお願いしたのがベースとなっている。財団と県が別の方向を向いているのではない。

もう一点、当然整備されると、現有勢力で維持できない。職員の数や予算の額だとかは増やしていただきたいと考えている。

(事務局)

事務局から一点、委員長からも仰っていただいたが、本日は皆さんの意見をたくさんいただく時間がなかったため、是非、事務局に展示の在り方だけでなく、ご意見をお寄せいただきたい。最後に林業振興・環境部環境共生課長からご挨拶を申し上げる。

(事務局：環境共生課長)

今日は本当にてんこ盛りの協議をお願い致しまして誠に申し訳ございません。また第5回で素案の完成に近いものをご提示したいと思うので、皆様方のご協力をお願いしたい。今日は長い間ありがとうございました。